

ルポ

# 心の性を求めて

②

## 第2部「手探りの日本」

「中学3年の時に『女っぽい』という理由でいじめられた」。ズボンを脱がされ、受け入れられないと感じていた男性の体をさらされた。約5年前、タイで男性から女性の体になる手術を受けた石川理江さん(43)。ショックは今も記憶に刻まれている。

思春期、性同一性障害(GID)の人にはさまざまな葛藤が押し寄せる。幼少期から心と体の性が一致しない違和感を抱き、10、15歳ごろで迎えるときれる第2次性徴。感覚の隔たり

### 2次性徴抑制療法

## 早期治療で悩み軽減

「男っぽく、を一時的に止めることが可能だ。岡山大病院ジェンダーセンターの中塚幹也医師と周囲の理解も深まり、本人の告白のきっかけにもなる」と提案する。

石川さんのクラスメイトもそれぞれ男らしく、女らしく成長した。「男っぽく、を一時的に止めることが可能だ。岡山大病院ジェンダーセンターの中塚幹也医師と周囲の理解も深まり、本人の告白のきっかけにもなる」と提案する。

石川さんはいじめに苦しんだ頃、GIDを知らなかった。「自分は男なのに女

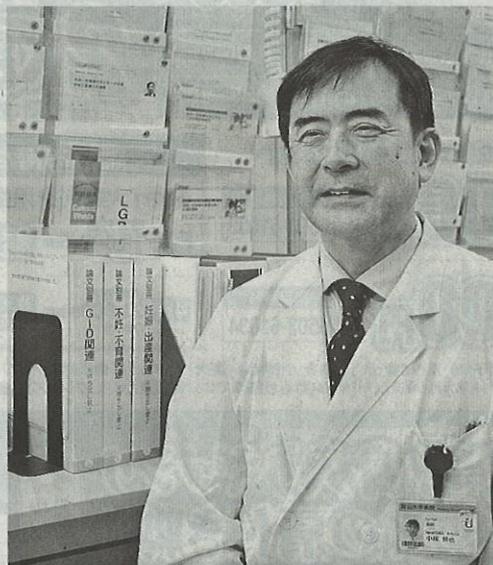
になりたいたいと思っている姿態なのか」と悩んだ。親にも長年打ち明けられず、つらい経験から20代で何度か自殺を図った。

こうした事態を避けるため、思春期から治療する道がある。ホルモン治療の一種である「2次性徴抑制療法」は、男女とも体の変化

が大きい悩みは深刻になる。石川さんのクラスメイトもそれぞれ男らしく、女らしく成長した。「男っぽく、を一時的に止めることが可能だ。岡山大病院ジェンダーセンターの中塚幹也医師と周囲の理解も深まり、本人の告白のきっかけにもなる」と提案する。

石川さんはいじめに苦しんだ頃、GIDを知らなかった。「自分は男なのに女

岡山大病院ジェンダーセンターの中塚幹也医師



た例もある」

「授業でGIDを肯定的に取り上げる時間を設けると周囲の理解も深まり、本人の告白のきっかけにもなる」と提案する。

費用面も課題だ。2次性徴抑制療法は公的医療保険の適用外で、月2万〜3万円が避けられない。「せっかく親が子どもの違和感に気付いて治療を始めたのに、費用を払えずに中断しい」と訴えた。